

広島大学蔵福尾文庫『精進魚類物語』室町中期写本 翻刻

広島大学日本語史研究会

一、広島大学蔵福尾文庫『精進魚類物語』について

ここに翻刻する『精進魚類物語』は、広島大学蔵福尾文庫第一九号として登録されている、室町時代中期の写本である。

基本的な書誌は、位藤邦生編『広島大学蔵古代中世文学貴重資料集 翻刻と目録』（二〇〇四年、笠間書院）所収「広島大学蔵福尾文庫」351・352頁に、外題に従い「精進魚類合戦」として採録され、記されている通りである。本翻刻では、内題に基づき「精進魚類物語」と呼称する。

この『精進魚類物語』は、伝本が多いとは言えない。詳しくは、高橋忠彦・高橋久子・古辞書研究会編著『御伽草子精進魚類物語 本文・校異篇』『同 研究・索引篇』（二〇〇四年、汲古書院）を参照願いたい。

広島大学蔵福尾文庫『精進魚類物語』は、巻末一紙分を欠く点

が惜しまれるものの、現在知られている『精進魚類物語』諸本中、最古の写本である。しかし、詳しく紹介されることが無かった。

このような現状に鑑み、広島大学日本語史研究会は、本資料の輪読を進めてきた。本年度、全文読了したため、学界における今後の研究のため、ここに翻刻文を公にする次第である。

大方のご批正を願いたい。（以上、佐々木 勇 記）

二、翻刻

〔凡例〕

一、本翻刻は、広島大学蔵福尾文庫『精進魚類物語』（福尾文庫第一九号）原本に基づき、その全体を、現行の字体に改めたものである。

一、翻刻にあたり、原本丁数表裏とともに全行の通し番号を付した。

一、本資料一冊は、第八丁本文141〜160行目の内容に相当する一紙と共に保管されている。この一紙分は、本来存した本文箇所に入れて翻刻した。

一、本文・振り仮名とも、原本の仮名遣いそのままとした。

一、抄物書および合字(シテ・コト)は現行の字体で翻刻し、左棒線を引くことによりそれであることを示した。

一、割書は、(へ)に入れ、/で改行を示した。

一、虫損・破損で読み得ない箇所は、□で示した。

一、その他、翻字に際し、注が必要と思われる点は、当該箇所、「」に入れて記した。

一、本翻字本文は、佐々木勇・刀田絵美子・井浪真吾・釋就美・岡本絵理・高尾千尋・岡幸恵・坂水貴司・松山亜未・服部芳野・粒田真由美で作成した。

一、原本閲覧・写真撮影ならびに翻刻の許可を賜わった、広島大学図書館に対し、心中より御礼申しあげる。

〔翻刻〕

〔表紙〕

〔表在上〕 精進魚類合戦 全

〔遊紙〕

〔表在下〕 頼弘

〔表在上〕 精進魚類物語

〔1才〕

1 精進魚類物語

- 2 去魚鳥元年(壬/申)八月一日精進魚類ノ殿原御料ノ大
- 3 番ニシテ被參ケル遲參ヲハ關番ニソ被付シ折節御料ハ
- 4 八幡宮ノ御齋ニテ放生會ト云彼岸ト云旁^{ワカク}精進ニテソ
- 5 渡^{ワツラ}セ給ケル爰越後國ノ住人鮭ノ大助長鯨カ子共ニ鮭^{ハルカ}太^{バツ}
- 6 郎鮫實同次郎鯉吉トテ兄弟二人候シヲハ遙^{タネシ}ノ末座へ
- 7 ソ被下ケル美濃國住人豆御料ノ子息納豆太郎種成
- 8 計^{ハカリ}ヲソ御身近クハ被召ケル鮭^{サケ}子共腹ヲ立一筋申テ殿原ニ
- 9 味^{アヂ}セントハ思へトモ親ノ大助ニ申合テコソ火ニモ水ニモ入メトテ
- 10 櫟^{クナシ}色ノ狩衣キテ款冬ノ井手ノ里へソ被^{ワレ}歸ケル其夜モ
- 〔1ウ〕
- 11 明ヌレハ駒ニ鞭ヲ捧^{サセ}夜ヲ日ニ次テ打程ニ同八月三日酉已點ニハ
- 12 越後國大河郡鮭^{サケ}庄親ノ大助館ニ下着^{チヤク}スル兄弟左右ニ相
- 13 並ヒ畏^{カウコマリ}申ケルハ我等此間為^ニ大番勤仕ノ上洛仕テ候トモ
- 14 豆御料子息納豆太郎ニ御意ヲ移^{ウツ}シ御目ニモ不被^{ワレ}懸^カ
- 15 剩^{アツサ}及^チ耻辱^{チゴロクニ}末座へ被^{ワレ}追下^{フヒ}候之間當座ニテ火ニモ水ニモ入
- 16 ハヤト存候シカ共如此子細ヲモ申合テコソト存候ノ間是マテ
- 17 下向トソ申ケル大助是ヲ聞テ真赤^{マツカ}ニ腹ヲ立我等一門ノ
- 18 中ニハ北陸道槐^{エスノ}千嶋マテ北流ル、河ヲハ我マ、二管^{フツレ}領スレハ
- 19 國ニテ不足ハナケレ共御料ノ不便^{ヒジ}ト仰^{アウ}セ有シカハ子共ヲモ

20 進スルニ人モ人々シク納豆太郎糸ノ奴原ニ思食替サセ給ハン

〔2才〕

21 番ニ被盛テモ何カセン長敷歳七十二餘リ幾程ナラヌ

22 世ノ中ニ己等故ニ物ヲ思コソ口借ケレ齡 亞顏駟恨同

23 伯鸞一是ニ付テモ故御料ノ御事コソ思出ルレ惣テ此

24 君ハ御意強御料ニテ年來ノ我等カ申事ヲモ無御

25 承引又諸國受領檢非違使大名小名ニモ白衣ニテ中

26 帶計曳入鳥帽子ニテ對面シ給モ不得心哀レ此御料ノ

27 兄御前ノ落姪腹ノ粟御料トテ御坐シコソ御心モ

28 細々トシテ御坐カトモソレハ自元御身少ク渡セ給エハ我等

29 可仕奉公様モナシ又仕君以礼スト云事アリ人ノ身トシテ

30 不仕二両君一事忠臣ノ法也サレハ我等人ヲ可馮ニモアラス就中

〔2ウ〕

31 此御料ノ農「曩」祖ヲ奉ルニ尋天地開白ヨリ生民アテ種下

32 日南池姫ノ御腹ニ宿リテ世ニ出給シヨリ以降伊勢天

33 照大神宮狩ノ使賀茂ノ御荒ノ御土物腹香ヲ奏スル

34 節會マテ以魚類ヲ宗トスサレハ仙人ノ琪樹ハ冷シテ無色

35 王母カ桃花ハ紅ナレトモ不香一カハ非情草木マテ随分徳ヲ

36 不施ト云事ナシマシテ我等先祖譜代ノ從類トシテ争カ

37 君ノ御為ニ不忠ヲ可振舞加様ニ思捨テラレマヒラスレハ今

38 日ヨリ奉公フツト無益ト思ヘトモ故御料ノサシモ見放ツナト

39 御遺言有シカハソレハ暫ク思留ル只何トシテモ世中ノ末ノ

40 御料ト成給コソ心モ詞モ及ハレネ其儀ナラハ魚類ノ一門

〔3才〕

41 催シ精進ノ奴原打亡シ我等御料ノ御中ニ繁昌セン事

42 安キ事也口テ鯉「上」鯉房十連ヲ差遣シ魚類ノ一族被觸催

43 ケリ其時馳參ル人々ニハ誰々ノ先鯨ノ大海守鯛赤助鯨

44 吉鱒ノ大内助鯉帶刀先生鯉大助鯉伊勢守鯉大

45 助嫡子鯉太郎鯉實同次郎鯉吉鯉長介鯉冠者

46 鯉ノ藤五鯉左衛門鯉右京ノ權介鯉源九郎鯉ノ平

47 三鯉備前守鯉刑部大夫鯉ノ判官代鯉ノ出羽守鯉左

48 少將鯉兵衛尉池殿ノ公達ニハ水鯉ノ御曹子小鯉近江

49 守款冬「疑」井手助熊野侍ニハ鯉三郎鯉「下」鯉鯉左大忠宇治殿

50 御中ニハ鯉ノ助カ一族白鯉ノ河内守鯉鯉中務鯉ノ

〔3ウ〕

51 判官代鯉右馬尉鯉鯉法師鯉鯉「上」鯉新左衛門

52 少外記鯉ノ奥州守鯉ノ大藏卿鯉助カ子共ニハ鯉冠

- 87 枕セシ其夜ハ末ノ松山浪越シト互ニ契シ言ノ葉ハ卓
 88 文君ニモヲトラス階老同穴ノ契 鴛鴦舳舻ノ語不
 89 淺 如何カセントソノタマヒケル鰻 是ヲ聞テ畏承 候畢
 90 生死無常ノ習有爲轉變ノ世ノ中尺 尊未免 梅檀ノ
 [5ウ]
 91 煙ヲ有始者ハ必ス有終一會者ハ定テ別離ノ憂ノ有事
 92 今ニハシメヌ習也サレハ人間ハ苦ノ中ニモ五盛陰苦求不得
 93 愛別離苦ト被説タリ就中弓矢取者ノ二心有ト被
 94 知サセ給ハン事可口惜カル其故先言ノ候ソカシ唐土ノ
 95 虎ハ毛ヲ惜ミ日本ノ武士ハ名ヲ惜トコソ申傳タル疵ヲ
 96 當代ニ始メ置キ誘ヲ後代ニワに重書殘サン事爲家ノ為
 97 身ノ可ニ口惜カル世静ル物ナラハ何ナラン波ノ底ニテモ回
 98 リ合セ給ハヌ事ヨモアラシナント様々誘申ケレハ赤助ケ
 99 ニモトヤ思ケン迎テイクホトナキ磯ノ和布ヲ昆布ノ
 100 大夫カ許ヘソ被送ケル其時和布一首ハ角ソ詠ケル
 [6オ]
 101 涙ヨリ外ニ心ノアラハコソ思ヒワカメヨ後ノ契ヲ
 102 赤助モカウソ連ケル
 103 忘シト思フ心ノカヨヒセハナトニタヒノチキリナカラシ

- 104 カクテ送ル程ニ赤助ハ武キモノノフトイヘトモ泪ニ空ハ
 105 カキクモリ昔王昭君ヲ胡國ノ夷ノ爲ニ被遣シ時
 106 胡角一聲ハ霜後ノ夢漢宮万里ハ月前ノ傷 ナント詠セシ
 107 事モ今更思知レテ昔ノ人ノ別マテ思ヒ連ヌレハアカヌ
 108 別ニヌルノ袖カハク間モナキ旅衣泣々興ヘソ被送ケル外
 109 ノ海松目マテモ塩タレテソ見シ又赤助ハ元鰻ノ腹ニ鰻
 110 子ノ有ケルヲ近付テ云含ケルハ汝ヲハ何ニモシテ御料ノ御見
 [6ウ]
 111 參ニ入ムトコソ思ヒツレ共今此事出來スル上者無力イカナラン
 112 岩ノハサマ浪ノ底ニモ隠レ居テ世静ル物ナラハ頭 出ヨト云
 113 含テ乳ノ鯛ノメノト駿河國高橋庄ヲ知行スル伯母ノ尼鯛
 114 ノ許ヘソ被遣ケル懸程ニ武者共皆鑑ヲ着キ甲ノ緒ヲ
 115 シメ馬ニ打乗打出ル鮭ノ大助長鯨カ其ノ日ノ装束ニハ鹿
 116 間ノ紺地ノ直垂ニ鶴 [上] 鳩 [緘] 緘着テ同毛ノ五枚甲ニ鷹
 117 角打テソ着タリケル廿五指タル鶴ノ羽ノ矢首 高二取テ
 118 付早鹿ノ角楯入タル弓ノ真中握リ鳥毛ノ馬ノ太ク
 119 逞シキニ熊皮ツノミノ鞍置テソ乘タリケル子息鯛 太郎鯨
 120 實同次郎鯉吉前後左右ニソ打タリケル鯛ノ赤助鯨吉
 [7オ]

- 121 力其日ノ装束ニハ水文ノ直垂ニ宇治ノ網代ニヨスル鮎緘ノ
 122 鎧ヲ草摺長ニサツト着テ同毛ノ甲ノ緒ヲシメテ三尺
 123 五寸ノ鱗物作ノ太刀ハキ廿四指タル鴉ノ尾ノ矢羽高二取
 124 付ケ我カ為ニ小鯛ノ弓ノ真中握リ白浪ノ葦毛ノ駒ニ須
 125 崎三千鳥櫓タル貝鞍置テソ乗タリケル今日ヲ限トヤ思
 126 ケン年比ノ郎等金首ニ鱸持セテ召具シタリ角テ打出ル
 127 処ニ沖ノ方ヲ見渡セハヲヒタ、シク「物ノ光リテ見ヘ
 ケレハ赤助
 128 アレハ何ソト問ケレハ金首申ケルハアレコソ一切衆生ノ御齋
 129 トナン參ラヌ人モ候ハヌ鱒「鱒」水ニテ渡セ給候ヘト申ケレハ
 130 サテハ氏神ニテ渡セ給ケリトテ馬ヨリ下三度礼拜シ
 「アウ」
 131 南無八幡大菩薩ト祈念シテ胡録ノ表指ヨリ鱒尾ノ狩
 132 俣抜キ出シ鱒水ニ奉ルカクテ出ケルニ四十計ナル物ノ色クロ
 133 カリケルカ少シ長キ馬ニ乗テ後レ馳テ來レリ大助アレハ誰
 134 ソト問給ケレハ手綱カイクリ弓杖ニスカリ大音捧テ申ケルハ
 135 是ハ近江國住人犬上河ノ惣追捕使鯨ノ判官代トソ申ケル
 136 何トテ今マテ御遲參ソト問ケレハ鱒ニ鱒「鱒」ヲハケンクトシ候
 程ニ

- 137 遲參トソ申ケル猿程ニ國內通外ノ事ナレハ精進ノ方ヘモ
 138 此由聞ケハ搔餅ノ律師ハ四十八人ノ弟子ヲ召具シ温餅ノ
 139 御所ヘソ被參ケル御所ハ此由聞食シ大ニ驚セ給シ本人ナレ
 140 ハ先ツ納豆太ニ告ヨト仰有ケレハ律師カ弟子假粧文ト云者
 「8オ」この丁は別紙。虫損・欠損が著しい。
 141 ヲ以テ告ケリ折節納豆太ハ藁ノ中ニ晝寢シテ有リケルカ
 142 ネ處見苦シトヤ思ケン涎垂レナカラカハト起テ行類シテ對
 143 面ス假粧文此由ヲ委申ケレハ納豆太其儀ナラハ精進ノ
 144 物共催トテ塩屋ト云者ヲ以テ先身近ク親キ者ナレハ摺唐
 145 布ノ權守ニ告ケリ道德ト云物味噌カニ馳廻テ催ケリ
 146 先六孫王ヨリ以來「多田」饅頭素麵ヲ始トシテ荷箸兵衛酢
 147 吉牛房左衛門長吉大根太郎高旨次郎蓮根
 148 江守若荷子太郎鮎ノ角ノ戸ノ三郎「果瓜山城守」
 149 渡邊黨ニハ菌豆武者重成藤筥左衛門節重
 150 侍大將ニハ納豆太郎種成甥唐醬大郎同麴次郎冬
 「8ウ」
 151 瓜ノ新左衛門入麵ノ又五郎土麻ノ兵衛尉路源太
 152 苦吉喬麦大隅守三角暑預ノ戸藏ノ介芋頭ノ大
 153 宮司炒豆笑太郎黃唐布ノ權介實寄「辛」子ノ新左

- 154 門尉河骨次郎秋吉雪^{セツ}「^下餠^{カウ}」雪守昆布大夫荒布ノ新介
 155 青苔^{トヨカイ}鷄冠^{イリス}水苔^{ミヅカ}ノ大郎^{オホノラウ}薑^{シヤウ}ノ源六^{ゲンロク}茄子^{ナス}ノ先生^{セイセイ}瓜生^{ウリウウ}
 156 五色^{イロイロ}大郎^{オホノラウ}苔豆^{トモ}干栗^{ヒノリ}栗^{トリス}奥^{オク}米草^{コメクサ}餅^{モチ}又五郎^{イチノエ}樹木^{ツキ}ノ中^{ナカ}
 157 上臈^{ウラハ}ニハ稚^{シヤウ}ノ少將^{シヤウシヤウ}桃宰^{トウサイ}相葉^{サウエ}「^下藁^{カウ}」ノ侍從^{シヤウジヤウ}栗^{トリス}ノ伊賀^{イガ}守大^{シヤウダイ}
 158 和國^{ワクニ}住人^{ジュニン}熟^{ジュク}柿^シノ冠者^{クワンシャ}實^{サネ}ニハ柿^シノ蓋^{フタ}計^{ケイ}ノ所領^{シヨウ}トテ
 159 騎替^{リカヒ}エ一騎^{イツキ}モ打サリケリ^{ウチサリケリ}柘榴^{シヤウリウ}ノ判官^{ハンカン}代把^{ダイハ}杷^パト大葉^{オホエフ}
 160 ノ三郎^{サンロウ}弟^{テイ}ノ柑子^{カンシ}五郎^{イチノエ}橋左衛門^{ハシサエモン}李^リノ式部^{シキブ}大夫^{ダイフ}梨江^{リカウ}ノ
- 〔9オ〕
 161 藏人^{サウジン}松茸^{マツタケ}ノ大郎^{オホノラウ}熊野^{クマノ}侍^{シヤウジヤウ}ニハ柚皮^{ユウヒ}庄司^{シヤウジ}糞^{フン}汰^{タイ}左衛門^{サエモン}青蔓^{アヲマ}
 162 三郎^{サンロウ}常吉^{ジョウキチ}ヲ始^{ハジメ}トシテ已上^{イジョウ}其勢^{シキセ}五千^{イツサウ}余騎^{ヨリキ}モ、シキノ雲^{クモ}ノ
 163 梯^{カケ}引落^{ヒキオチ}シ分取^{ワキテ}高名^{タカナ}ハ我^{ワレ}モく、トソ被思^{ヒシヤウ}ケル中^{ナカ}ニモ苟^{コト}箸^{シヤウ}兵^{ヘイ}
 164 衛^ヱハ氏神^{シヤウジン}ノ薑^{シヤウ}ニ參^{マシ}テ祈念^{イノチ}スル様^{サマ}ハ醉^{サケ}吉^{キチ}今度^{イマド}ノ辛^{カラシ}キ命^{イノチ}
 165 ヲ助^{タスケ}サセ給^{タマハシ}トテ通夜^{ツヨ}我身^{ワレミ}ノ藝能^{ゲイネ}ヲ盡^{ツクシ}テ様^{サマ}ノ馴子^{ナラシコ}舞^{マシ}
 166 ナントシケルカ管^{カン}弦^{ゲン}ノ具足^{クゾク}ヲ取忘^{トルワシ}テ生薑^{シヤウキヤウ}計^{ケイ}ヲソシタリ
 167 ケル猿^{サル}猿程^{サルケ}ニ納豆^{ナトウ}太^{タイ}「^神申^{マシ}ケル」ハ敵^{テキ}多勢^{タセ}也御方^{オノカタ}ハ無勢^{ムセ}也縦^{タテ}ヒ打死^{ウチシ}
 168 スル共^{トモ}ハカくシカラン用害^{ヨウガイ}ニカ、ラントテ美濃^{ミノ}國^{クニ}豆津^{マヅ}ノ庄^{シヤウ}
 169 ヘソ下ケル彼所^{カノトコロ}ト申^{マシ}ハ究竟^{ケウキヤウ}ノ城^{シヤウ}也オホロケニテ口^{クチ}落^{オチ}ス
 170 様^{サマ}モナシ其^{ソノ}レヲイカニト申^{マシ}ニ前^{マエ}ハ青山^{アヲヤマ}山峨^{ヤマカ}ミトシテ不破^{フヅ}ノ関^{セキ}

- 171 屋^ヤニツ、キ伊勢^{イセ}路^ヂヲ指^{サシ}テ遙^{ハルカ}也青陽^{アヲノカ}ノ春來^{ハルカ}レハ遠山^{トウサン}ニ霞^{カスミ}
 172 ノ衣裁^{イザイ}重^{オモシ}ネ紫塵^{ムラサキチン}ノ嬾^{マシ}キ早^{ササ}敷^シモコ、ヤカシコニ生出^{シユ}タリ
 173 後^{ノチ}ハ足^{タラシ}香須^{カウス}ノ俣^{マシ}瀬^セ瀬川^{セセガハ}トテ三ノ大河^{オホノカハ}ノ流^{ナリ}レタル東岸^{アサノカ}
 174 西岸^{ニシノカ}ノ柳^{ヤナギ}不同^{フナヒ}遲速^{オソク}ニ南北^{キタナミ}ノ風^{カゼ}冷^{ヒヤシ}シテ寄^{ツキ}セ來^キル蒼波^{サウハ}白^{シロ}
 175 浪^{ナミ}ハ旧^{キウ}苔^{トモ}ノ鬚^{ヒゲ}ヲ洗^{ワシ}ケリ河^{カハ}ノ面^{オモテ}ニハ乱椿^{ランシヤウ}逆木^{サカサカ}ヲ引^{ヒキ}キ上^{ノボ}
 176 下^{シタ}ニハ大綱^{オホノカウ}小綱^{コノカウ}ヲハヘタレハ何^{ナニ}ナルハヤリ男^ヲノ白鰻^{オシロコ}ナリトモ可^{カク}
 177 通^{カウ}ヤウソナキ其上^{シノ}ニハ鹿^{シカ}櫛^シ椿^シ垣^{カキ}結立^{ムスビ}飛木^{トビキ}ヤ鳴^{ナリ}子^コヲ
 178 用意^{ヨウイ}スルカ、リケレハ武者^{ムシヤウ}共^{トモ}已^{マデ}ニ寄^{ツキ}ト聞^キシカハ兵^{ヘイ}共^{トモ}打立^{ウチタテ}
 179 龍樓^{リウロウ}八陣^{ハチジン}ヲ構^{カマ}ヘ當^{マシ}初^{ハジメ}項^{コウ}羽^ウノ七十^{シチジュウ}余度^{ヨリド}ノ戰^{セウ}ニ秦王^{シヤウ}王^ヲノ
 180 破陣^{ハチジン}樂^{ラク}ヲ奏^{ソウ}セシモ争^{マシ}力^{チカラ}是^{コト}ニハ可勝^{カクシヤウ}納豆^{ナトウ}太力^{タイチカラ}其日^{ソノヒ}ノ
- 〔10オ〕
 181 装束^{シヤウソク}東^{トウ}ニハ塩^{シヤウ}干^{カン}ニ橋書^{ハシガキ}タル白糸^{オシロ}威^イノ大鎧^{オホノヨロイ}草摺^{クサシズ}長^{ナガ}ニ散^{サン}ツト
 182 着^キキ梅^{ウメ}干^{カン}ノ甲^{カウ}ノ緒^オヲシメ鎬^{カウラトウ}藤^{フジ}弓^{ユウ}ノ真^{マコト}中^{ナカ}握^{ニギ}リ礮^カノ鍛^カ
 183 治布^{チフ}ヲ召^{メシ}寄^キテ練^{レン}タル香^{カウ}ノ箭^ヤ十六^{ジュウロク}マテ取指^{トルサシ}ケリ五氣^{イツキ}ニ
 184 余^{オノ}ル陸^{リク}豆^{マメ}前後^{マエノチ}ノ山形^{ヤマカゲ}ニハ陶^{タウ}淵^{エン}明^{メイ}カ友^{トモ}トセシ重陽^{シヤウヤウ}ノ宴^{エン}ニ酌^{シヤク}
 185 ナレシ菊^{キク}酒^{シウ}ニ盃^{ハシ}取^{トル}添^{ソノ}タル處^{トコロ}ヲ磨^{ヒカキ}付^{ツキ}ニソシタリケル黄^{ワウ}伏^{フツ}輪^{リン}ノ
 186 鞍^{アサ}置^{オキ}テユラリト乗^{ノリ}テ打立^{ウチタテ}タリ甥^{ニヤウ}ノ唐^{タウ}醬^{シヤウ}大^{ダイ}郎^{ロウ}是^{コト}モ同^{トウ}
 187 装束^{シヤウソク}ニ河原^{カハラ}毛^{モウ}ノ馬^{ウマ}ニソ乗^{ノリ}タリケル炒^{シヤウ}豆^{マメ}笑^{シヤウ}太郎^{タウロウ}自然^{シヤウ}ノ
 188 事^{コト}モアラハ腹^{ハラ}切^キランスル思^{オモ}ニテ打^{ウチ}ハネンスル小豆^{コトウ}ノ御菜^{オノナ}ニナルニ

- 189 ソ乗タリケル猿程ニ五聲ノキウロノ宮漏ノ明テ後一點テシノ窓ノノ燈滅トウキキモ
- 190 ナントスル時大手擲カサメ手寄來テ一度ニ時ヲ作り其時懸
- 〔10ウ〕
- 191 出テ大音聲ニ名乗ケルハ遠クハ音ニモ聞今ハ目ニモ見ヨ極
- 192 樂浄土ニ有ナル孔雀クワシヤクホウワウ鳳凰ニハ三代ノ末孫戀シキ人ニ相坂ノ関ニ
- 193 棲ム鷄ノ雅樂助長尾ト名乗テ白露ヲ扣ホロテカケロくトソ
- 194 下知シケル城中ニハ是ヲ聞テ納豆太鑊フンハリ大音捧テ
- 195 名乗ケルハ神武天皇七十二代ノ後胤深草ノ天皇ニハ五代ノ
- 196 苗裔ベウテイ島山ノ鞘サヤ櫛シ櫛シ豆ニハ三代ノ末葉豆御料ノ子息納豆太
- 197 郎種成ト名乗テニ羽矢ノ味噌鑊打クハセ能引キツメテ
- 198 兵ト射ル鷄ノ雅樂ノ助長尾カ布露袋ヲ射連イソツラヌイテ次
- 199 立タル白鷺ノ雪守カ細頸危クヒアヤウク射カケテ後ナル大角豆サケケ島ニ
- 200 コナリシテコソ立タリケレ懸処ニ鰯イナリ太郎鮫實進ミ出テ名
- 〔11オ〕
- 201 乗ケルハ只今寄タル物ヲハ誰ト見タルソ今度ノ謀叛ノ最サイ
- 202 張遠ハ音ニモ聞ツラン今ハ目ニモ見ヨ大日本國南閩浮提ユンフタイ
- 203 天テ下正像ザウニ天ハサテ□□又大通智勝ノ世ト成テ二千余年ハ
- 204 ハヤ過又自余シカシヨリ「虫損コノカガタ以降天神七「虫損代ニ至テ豊葦原ノ中津國
- 205 五幾七道ヲ分シ王城ヨリハ子ノ方北陸道越後國大河郡

- 206 鮎庄アユ住人鮎ササノ大助長鮎ヒシカ嫡子鮎ウツ 大郎鮎實生年
- 207 積ツキテ廿六歳ニ罷成ル我ト思ハン物者抑並アサシチテ組ヤト名乗テ
- 208 胡録ノ表指ヨリ鯖尾ノ狩俣カサ拔出シ能搜ウツツメテ放ツ矢ニ
- 209 芋頭イモコウノ大宮司カ頭射ワラレテ馬ヨリ下ニ落ニケリ芋
- 210 □子共引退キ如何セントソ歎ナクキケル炒豆ノ笑大郎是
- 〔11ウ〕
- 211 □□ノ合戰ニ出程ニテソレ程ノ薄手負ウステアウテサノミ歎ナククカト
- 212 テ腹ノ皮切テ笑ワツヒケリ芋子共ニクキ物ノ云事哉死
- 213 ナン事ハ子細ナケレトモ見放ツヘキニアラネハ加様ニアツカウ「擧擧」ノ
- 214 カシトテ御前ノ瓶子ニ酒ノ殘テ有リケルヲ取テ笑太郎カ
- 215 類ニキカケタリ廳ヤカサテマカくトシテスムツカリニソ成ニケル其
- 216 後大宮司ハ鬚ヒゲカキナテヨニクルシケナル氣ヲツキノ給ケル
- 217 ハ我レ島ノ頭カハネヲ出シヨリ命ヲハ御料ニ奉リ屍カハネヲハ龍門
- 218 原上ノ土ニ埋ウツテ名ヲ後代ニアケント存セシ也然ニ今此疵キズヲ
- 219 蒙ルコレニテ助ル事ハヨモアラシ只跡アトニ思置ク事トテハソ、
- 220 リ子ノ事ハカリナリ我何ニモ成ナン後ハ摺唐布ノ權守ヲ
- 〔12オ〕
- 221 可馮昔ヨリ今ニ至マテナサヌ中ハヨカラヌ事也構カマ々テ
- 222 權守ヲ可馮能カマ々云テ可レ預ト有ケレハ嫡子黒湯クロユノ大郎

240 239 238 237 236 235 234 233 232 231 [12ウ]

蒙仰候又我等モ弓矢取身ニテ候へハ今日有レハトテ明
 日可有トモ不覺候如仰ソ、リ子ヲハ唐布權守ニ可申
 付ト云ケレハ大宮司是ヲ聞テ隨喜ノ泪ヲ流シケリ其
 ヲリシテコソ芋ノ子共摺唐布ノ子ト成ニケレ御料是
 ヲ御ランシテカクソ詠サセ給ケル

229 228 227 226 225 224 223

此ノ芋ノ母ノ事コソ思ハルレニタル子共ノヨキヲ見ルニモ
 □無幾程大宮司ハ弓箭刀杖ノ場ニ歩ヲ進ムト云
 □□□□□ニ心ヲ澄シ輪□得脱ノ不可思議ナル所ヲ

230 229 228 227 226 225 224 223

□□□□□程ニ城中ニハ大宮司「破損」□□□□無念申計ナシ渡
 辺黨ノ物共菌豆武者重成筭□□□□源太夫
 □□□□□三郎深澤ノ芹太郎先トシテ究竟
 ノ兵物十七騎手足勢兵荒馬乘ノ大力一味同心ニヲ
 メイテハツト懸ケ出ル魚類ノ物共カケ立ラレテ蜘蛛ノ子ヲ
 散スカ如ニ散々ニ成処ヲ唐醬炒豆笑大郎覆盆子
 零餘子□□□ノ究竟ノ足白手足共力走り散リサシ
 トリ引ツメイケル矢ニ鯛赤助鯨吉胸ノ本ヲ篠深
 イサセテ馬ヨリ下へ落ニケリ後見ノ鯨ノ入道ツトヨリ

257 256 255 254 253 252 251 [13ウ]

魚頭ヲ膝ニカキノセテ今生ニ思食置事アラハ鯨ニクワ
 シク承候へシ某カクテ□へハ御跡ノ御事ヲハ御心安思□
 ト申ケレハ赤助クルシケナル氣ヲツキノ給ケルハ人ノ親□
 心ハ暗ニアラネトモ子ヲ思フ道ニ迷フ習ト云ハ理也老少
 不定ノ境前後沈埋ノ世ノ中ナレハ末ノ露本ノ濡「上雲」ヲクレ
 先立タメシ也只今黄泉中有ノ道ニ趣ク親キモ疎モ誰
 カハ伴テ可行觀花忽一盡又春三月命業易零秋一時
 今更可歎ニハアラネ共只少キ者共事ヲ思ヒ連ルニ安「破損」
 キ心ナシイカサマ預弥路ノ障トモ成へシ如何セントソノ
 給ケル鯨畏承候ト人ノ親ノ子ヲ思事高事五岳モ

249 248 247 246 245 244 243 242 241 [13オ]

希ナル習也サレハ經ニモ被説タリ
 諸佛念衆生衆生不念佛父母常念子子不念父母ト見
 タリ就中少キ人ミノ御事ハ思食モ誠ニ理リナリ夜ノ
 羈ノ籠ノ中ニ鳴キ燒野ノ鳩徒ニ卵ニ身ヲ滅スカハル禽
 獸鳥類マテモ子ヲ思フ道ニ迷フ習也サレ共鯨角
 テ候へハ跡ノ御事者御心安思召往生ノ素懷ヲ遂サ

- 292 所ニ閉籠^{トナリ}リ名ヲハ梅法師トソ申ケル近比^{チカ}荒行^{アサヒヤウ}ノミ好テサ
 293 シモアツキ六月ニモ晝ハ日ニ被干夜ハ定ニソ入ニケル此比^ヒ粕^ハノ
 294 御料ノ御氣色ニ入テ清酒ニ被^ヒ浸^ヒ額^イノ皺^シスコシノヒフクラヒテ
 295 在リシカ弓矢取身ノ習トテ納豆太カ謀反ニ与^ク疵^シヲ
 296 蒙^ヨノミナラス終ニ空シク成ニケルコソ不便ナレカハル程ニ寄^{ヨスル}武
 297 者共申様イツマテカクテ可^レ有^ソ一合戰セントテ鵬^{ヒツカ}ノ判官
 298 代白鷺ノ雪守山ノ殿原ニハ獅子麒麟猪武者ヲ先トシテ
 299 三百余騎ノ馬ノ轡ヲ杓ノ崎キ鈍^ト矢形ニ立テ并テヲメ
 300 イテ懸ケレハ自元用意ノ事ナレハ飛木ヤ鳴子ニシフカ□
 〔16オ〕
 301 レテ無左右ヨラサリケルカ飛木ヤ鳴子モ目馴^ナレキハナレ
 302 スル程ニ鹿垣椿垣モミ破^ツり壁^ツノキハマテ責^セ付^セル城中ニハ是
 303 ヲ見テ敵コソ近付^{チカ}タレアマスナモラスナ生^イ取^イネチ首^ビ
 304 シテ高名セヨヤ若^{ワカキ}物共トテ柘榴^{シヤクノ}ノ判官代柈^ハ柈^ハ大葉
 305 ノ三郎ヲ大將トシテ究竟^{キヤウ}ノ者共五十余騎木戸ヲ開テ
 306 懸出ル三百余騎ノ者□□ヲアケテソ通シケル其後引裏^{ウミ}蜘蛛^{クモ}手
 307 十文字^上「字」ニ入^{チカ}違^{チガ}ヒ入^{チカ}乱^シテ互ニ命ヲ不^レ惜^セ合戰ス究竟物共二百余
 308 騎忽^レ被^レ打^レケリ鵬^{ヒツカ}ノ判官代カナハシトヤ思□ン陣ヲ引テソ
 309 歸ケルカハリケレハ魚類ノ物共是ヲ見テ鳩鳥ノ大納言鴨^カ五

- 310 郎鷹^{トク}音ノ十具^ツ矢ノ守ヲ始トシテ究竟^{キヤウ}兵物五
 〔16ウ〕
 311 百余騎入替^タテソカケタリケルサレ共精進物共一人モ不
 312 被打^ヒ栗^トノ伊賀守ハハカクシカラシトヤ思ケンムギクニ成
 313 テソ被落ケル御料是ヲ御覽^ミシテカク□詠^ヒセサセ給ケル
 314 イカ栗ノムク方シラス落ウセテ何ナル人ニヒロイトラレン
 315 椎ノ少將モ何方トモ□□谷底へ被落ケルカ獨^{ヒトリ}言ニカクソ
 316 ナカメサセ給ケル
 317 今コソハ身^{ツキ}ノ置^キ所シラストモツミウシナヘヨ後ノ世ノタメ
 318 懸ケレハ魚類ノ方□□赤助ヲ始トシテ宗徒ノ物共三百余騎
 319 被打ケレハ或ハ落^ツ失^ク或ハ降^カ參^マシテ残少ニナル程ニ本人^{サシ}鯉^イ
 320 ノ大助モ痛^イ手^テ負^ヒテ浪打^{ナミ}際ニ有リケルカ今ハ此事叶ハシ
 〔17オ〕
 321 トヤ思ケン底不知ト云^イ洲馬ニ乗テ子息^ウ鯛^ト 太郎一人召具シ□
 322 河上ニ□□ト被落ケリ爰^コ近江國蒲生郡豊浦ノ
 323 住人青蔓^{アヲナ}三郎常吉ト云物コハ落ルコソ鯉^イノ大助
 324 ナレアハレ敵ヤ押並テ組^ク「組」ントテ二尺八寸ノ莖^ク立^チヲ拔^キテ
 325 眞額^{マコ}ニサシカサシ是ヲ落ハ大助カ云^イ甲斐^イナクモ敵^ニ上
 326 卷^マヲ見スル物カナカへ□□トヲメイテカケレハ大助名ヲヤ

〔尾欠〕

- 340 惜ミケン駒ノ手綱ヲ引返シ浪打際ニ懸並テ散々ニ戦ホ
 339 トニ大助痛手ハ負タリ心ハカリハ猛ク思ヘトモ左右ノ手
 338 ノ力盡テ請ケハツス所ヲ青苔三郎指及テソ打タリ
 337 ケル胸本ヲ後ノ斂マテ被切付タリ 鮎 太郎モ痛手ハ
 336 負タリケレハ精進ノ物共余タ重ナル叶シトヤ思ケン自元用
 335 意ノ事ナレハ鮎實モロ共ニ銅ノ城ニ被藏ケル彼城ト□ハ
 334 究竟ノ用害也輒ク人ノ可落様モナシサレハ爰ニ向物ハ
 333 新豊ノ折臂翁力瀧水ノ戦 村南村北ニ哭スル聲□□□
 332 テ五月万里ノ雲南□行事ヲ辞スルニ不異カ、リケレハ面
 331 ヲ向ル物一人モナシ爰ニ山城國住人大原木ノ太郎ト云物
 其勢三百余騎はハイツカタトモナク引ヘタリケルカ精進物
 共勝軍ノ鉢ナリケレハ推寄テ下ヨリ猛火ヲ放テ
 責ニケリ忽ニホムヲト成テ燃へ上ル喩ハ黒繩衆合叫喚大
 叫喚ノ八大地獄ニ不異懸処ニ杵子ノ荒太郎ト云物アリ

〔17ウ〕

〔18オ〕

- 345 漢木難干 (肩之痛ニ吉ノ疝氣ニ吉)
 344 一 リロニ□□加ヘテ煎シ妙
 343 一 痲疔ニ吉
 342 岩山崩倒硯玉破碎 硯
 341 姜女已去孟子不來 盖 蘇軾胸胤頌

(代表 佐々木 勇・広島大学・教授)